



長崎・眼鏡橋

鎖国の江戸時代に唯一、開かれた長崎は貿易、文化の拠点となっていた。現在、長崎市内には様々な文化遺産が至る所に点在し観光名所となっているが、今回お伝えするのは眼鏡橋である。その歴史を緋ひければ、遙かな時代へとつながる。古代ローマ人の石橋の技術をポルトガル人を通じて伝えられた。中島川にかかる日本最古のアーチ型石橋は長崎の豪商であった末次一族の資財で造られたと言われる。最初の眼鏡橋は一六三四年（寛永十一年）、興福寺の住職である黙子もくす如定にじょうによって美しい石橋の完成をみたという。私が訪れた時、太陽光線の具合もよく、二連アーチの石橋が見事な映像を創り出してくれていた。橋の上には多くの観光客がたたずみ、思い思いのポーズでカメラに収まっていた。中島川の流れも実におだやかであったが、実は一九八二年（昭和五十七年）の長崎大水害で大きな被害を受けた。だが翌年には修復されている。川面に映る眼鏡橋の姿は、いつまでも輝いてほしい。

（写真・文 樋口健二）